

日本人と韓国人の化粧観の国際比較研究 男女学生のアンケート調査から

村澤博人

大阪樟蔭女子大学被服学科

【背景と目的】

筆者は日本人の化粧文化研究の一環として顔の美意識について研究し、日本の顔文化の特徴として「顔隠し文化」「正面顔文化」を指摘した。さらに筆者らは日韓、日韓中の美貌観比較研究に着手し、日本人は顔を正面から平面的に見る傾向があるなど、顔の見方について韓中とは異なる価値観の存在を指摘し、その違いは歴史的文化的背景に帰因することを示唆してきた。

そこで、本研究では化粧そのものを研究対象として、調査対象を日本人と韓国人の男女大学生に絞り、化粧や顔からだについての広く美意識の違いを明確にするために、アンケート調査を実施した。

【結果と考察】

調査対象者は日本人男子学生 198 名(平均 19.49 歳)、女子学生 218 名(平均 20.17 歳)、韓国人男子学生 123 名(平均 21.07 歳)、女子学生 352 名(平均 20.47 歳)であった。

メイクについては、「ふだん」「異性とのデート時」「パーティなどのドレスアップした時」の3つのTPO別にメイクの種類と程度(以下メイク度)を聞いた結果、「メイクしている」女性の比率で日韓の女子学生の間で大きな違いがあった。「ふだん」「デート」「ドレスアップ」のそれぞれの場合において日本の女子学生のメイク率は、韓国の女子学生に比べて高い結果であった。ヘアカラーを除いて、日本の女子学生は「ふだん」より「デート」「ドレスアップ」の順に「しっかりメイク」する傾向にある。その幅はアイメイクを中心にネイルカラーにまで及び、フルメイク志向の日本の女子学生像が浮かんでくる。それに比して、韓国の女子学生はメイク率が全体に低いせいこともあるが、「デート」「ドレスアップ」の時も「ベースメイク」「眉」は「ふだん」と変わらない傾向がある一方で、目や唇や爪などのポイントメイクではしっかりとメイクする人も少数だがいた。

ふだんの肌などへの手入れでは、日本の女子学生のほぼ半数が「脱毛」「産毛剃り」「顔剃り」に回答しているが、韓国女子学生は「垢すり」「顔パック」がほぼ半数と日韓で全く異なる傾向を示した。肌をきれいにするためには日本の女子学生は化粧品好きで食べ物にこだわり派に対して、韓国の女子学生は垢すり自家製パック派であった。

ピアス・美容整形などの経験については、ピアスは日本人が多く、女子学生で51%、男子学生で20%に対して、韓国の女子学生は11%、韓国の男子学生は8%であった。美容整形は、記名式のアンケートであるにもかかわらず、韓国の女子学生は8%。韓国の男子学生で1%が経験ありと答え、日本人は男女共0%であった。韓国人の結果はかなり現実を反映しているのに対して、日本は美容整形が市民権が得られていないために、現実を反映していないようにも考えられる。歯列矯正は日本の女子学生で19%、日本の男子学生で11%、韓国の女子学生は10%、韓国の男子学生は6%であった。

自分の体毛と体臭についての意見では、日本の女子学生は67%が体毛を嫌い、86%が無臭化を望んでいるという男子学生とも韓国男女学生ともたいへん異なる傾向を示した。周りの目を気にしつつ、マイナスは消去したがる像が浮かんでくる。

肌色に関しては認識では、日韓とも男子学生は黒い方とっており、女性では白い方とっている一方、肌色の好みは、男子学生よりも女子学生が、日本人よりも韓国人の方がより白い肌色を好む傾向が見られた。

美容整形などの意見で、韓国の女子学生は美容整形そのものに対して50%が「賛成」、同じく50%が「安全性に不安がある」と賛否両論が存在した点は興味深く、さらに調査を進める必要を感じた。日本人は回答率が低かったので、明確な像を描くことができなかった。

外見を中心にした生活観についての意見では、日韓、男女でかなり似通った構造があり、今回の調査では明確な違いは見いだせなかった。

今後はさらにテーマを絞った調査研究を実施して、広く化粧文化に関する見方を拡げていく所存である。